

公益財団法人三康文化研究所附属三康図書館

1月ミニ展示

「江戸時代の工芸図案・模様」について

今回のミニ展示では、工芸品の制作に携わった職人に向けて編纂された、江戸時代後期の工芸図案・模様に関する資料を7点紹介します。(1点明治期に制作された資料も含まれます)これらは、歌川廣重(二世)(1926-1869)、溪齋英泉(1790-1848)、葛飾北齋(1760-1849)等当時一流の絵師によって描かれた図案・模様です。また、『伴大納言絵詞』『石山寺縁起絵巻』等の絵巻物に描かれた模様を模写した写本(手書きの資料)もあります。

工芸品とは、日常生活において使われる道具類に、美しい模様を描く等して、装飾を施した製品のことで、

これらの資料から、一流の絵師によって描かれた図案・模様を模写し、技術を習得していた職人の姿を想像いただければ幸いです。

①『諸職画通』[初編]～三編(3冊)

歌川廣重(二世)(1926-1869)画
江戸 藤岡屋慶治郎板
文久3(1863)年～元治[1](1864)
年発行(発行年は序による)
請求記号:国 15-363-1～3

[初編]の序は、江戸時代末期から明治時代に活躍した仮名垣魯文(1829-1894)により書かれている。この本は、山水、人物、鳥、虫、けもの、煙管、彫物、根付、諸金具飾り、陶器上絵、沈金(漆器の装飾技法)、蒔絵等の模様を描いたものをまとめたもの。工芸品制作に関わる職人をはじめ、絵を習う人も参考にできるように制作された。

②『萬職手燈灯』

山閑人交来([武田交来])
(1819-1882)補筆
一交齋幾丸([武田幾丸])
(生没年不詳)画
東京 吉田屋文三郎板
明治期発行
請求記号:国 15-364

たこ 凧の図案集。武者絵や文字の図案が描かれている。

なお、序に記載の「鳳巾」「烏賊昇り」は凧のこと。

- ③ 『とうせいもようしよしょくひながた當世模様諸職雛形』
はるかわ しゅんさい えいしやう
[春川] 春齋(英笑)(生没年未詳)画
江戸 北島順四郎, 須原屋太助,
英大助刊行
天保 4(1834)年発行
請求記号:国 15-365

江戸時代後期の描かれた染模様、紋所を描きまとめた本。模様の色についても記載されている。

- ④ 『えほんにしきのふくろ畫本錦之囊』
けいさいえいせん
溪齋英泉(1790-1848)画
大坂 河内屋茂兵衛刊行
文政 11(1828)年発行
(発行年は序による)
請求記号:国 15-368

工芸品の制作に携わる職人のために、
金物細工、彫物、かんざし蒔絵、簪、陶器模様
等の図案をまとめた本。

- ⑤ 『かつしかえほんしんひながた葛飾画本新鄙形』
かつしかほくさい
葛飾北齋(1760-1849)画
江戸 須原屋茂兵衛[ほか]刊行
天保 7(1837)年発行
請求記号:国 15-370

神社仏閣、船、館、鐘楼門、鐘、橋、塔等
の描き方について記した本。

- ⑥ 『いんろう ふ けんこん印籠譜』乾坤(2冊)
もりげんこうさい
森玄黄齋(1807-1886)画
[出版地不明] [版元不明]
[出版年不明]
請求記号:国 15-371-1~2

いんろう印籠の図案集。もりげんこうさい森玄黄齋は現在の埼玉
県秩父出身の絵師で彫刻家。
図案の中には、森玄黄齋の地元、三峰
山、武甲山、多摩川(玉川)の風景が描
かれた図案もある。

- ⑦ 『古模様圖本』乾坤(2軸)
[制作者不明]
[弘化 2(1845)年制作か]
請求記号:国軸 15-529-1~2

坤の巻の末尾に「つちのとみ己巳季冬模写年」と
記載があるので、弘化 2 年に
制作された写本と推定される。乾の巻、
坤の巻の末尾に「錦蔡[花押]」
と記載、また、「源政恒」の押印がある
が、「錦蔡」と「源政恒」が同一人物で
あるのか、また、製作者か所有者の一人
であったのかは不明。

この軸(かんすぼん卷子本)の内容は、『伴大納言
絵詞』『石山寺縁起絵巻』『春日権
現記』等の絵巻物に描かれた模様、東
大寺蔵、法隆寺蔵のからひつ辛櫃(遺体を入
れる棺)の模様、法隆寺蔵袈裟箱の
模様等を模写したもの。彩色されて
いない模様には色の書き込みがある。